

令和元年度 第1回  
東京都地域活動に関する検討会

議事要旨

令和元年7月3日（水）

都庁第一本庁舎42階（北塔）特別会議室A

午後 1 時15分開会

○地域活動推進課長 ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催させていただきます。

私は事務局を務めます東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課長の山崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本検討会は、お手元の資料 1 の「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づいて設置されており、検討会設置要綱第 8 によりまして本検討会は公開とさせていただきます。御異論がなければ、検討会の議事録も公表をさせていただきたいと思えます。御了承をお願いいたします。

なお、本検討会の議事録につきましては東京都のホームページで公表させていただきます。

本日はプレス 1 社から申し込みがありました。写真撮影は冒頭だけとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、ここから検討会設置要綱第 5 の 2 項によりまして、本検討会の座長を務めます生活文化局都民生活部長の金子が進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○座長 皆さん、こんにちは。都民生活部長の金子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて話を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、またお暑い中、都庁のほうにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

東京都地域活動に関する検討会は、東京の抱えるさまざまな課題を解決するためには、各町会・自治会連合会の皆様方と行政の区域を超えて、都の行政課題や、皆様方の取り組みを共有するとともに、このような形で意見交換を行うことが非常に重要であると考え、平成 29 年 3 月に設置したというのが経緯でございます。本日も忌憚のない活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

次に、配付資料につきまして事務局のほうから確認させていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、配付資料について確認させていただきます。着座にて進めさせていただきます。

お手元の資料 1 枚目に「東京都地域活動に関する検討会（第 1 回）」と書かれました次第がございまして、1 枚おめくりいただきますと、資料 1 といたしまして東京都地域活動

に関する検討会設置要綱がございます。資料2といたしまして検討会委員の名簿がございます。資料3につきましては座席表でございます。資料4として、A4横になりますが、本日御説明させていただきます「T o k y o T o k y o F E S T I V A Lについて」というカラー刷りのものがございます。あとは皆様のところに「T o k y o T o k y o F E S T I V A L」と書いたクリアファイルを1部ずつ置かせていただいております。

資料は以上でございます。不足等ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

御発言をいただく場合は、事務局の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクにて御発言いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○座長 続きます、次第の2、委員についてでございます。前回から5名の委員の方が交代されております。本来であればお一人お一人から自己紹介をしていただくところがございますけれども、時間の都合もございます。お手元の資料2の委員名簿の右側に米印がついていますけれども、この方たちが新たに交代された委員でございますので、この名簿をもって御紹介にかえさせていただきたいと思っております。御了承をお願い申し上げます。

なお、本日は、資料2にございます委員の方々のうち、千代田区、中央区、港区、荒川区、江戸川区、八王子市、稲城市、奥多摩町、以上8名の委員の方々が御欠席となっております。

なお、八王子市の秋間会長は欠席となっておりますが、荒井副会長に御出席いただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、次第の3、地域課題についての意見交換に入らせていただきます。本日はオリンピック・パラリンピックに向けた東京都の文化プログラムでありますT o k y o T o k y o F E S T I V A Lを議題にさせていただきます。都町連の皆様には、招致の段階からオリンピック・パラリンピックの気運醸成に積極的に取り組んでいただきまして今日に至っているということで、誠にありがとうございます。

本日は開催までいよいよあと1年と迫った状況でございます。オリンピックというのは、御存じのとおり、スポーツだけのイベントではなく、文化のイベントでもあると言われております。ロンドン大会でもかなりクローズアップされて、文化イベントとしての側面が非常に色濃く打ち出されたというのが記憶に新しいかと思っております。都は、スポーツだけでなく、文化という側面からもこれから盛り上げていきたいと考えております。そのことを通じまして東京2020大会を成功に導いていきたいということで、今回のテーマとして取り上げさせていただいたところがございます。

本日は、生活文化局文化振興部事業計画担当課長の伊東課長が出席しております。伊東課長よりオリンピック・パラリンピックに向けた東京都の文化プログラムについて御説明をさせていただきます。それでは、どうぞよろしく申し上げます。

○事業計画担当課長 皆様、こんにちは。文化振興部事業計画担当課長の伊東と申します。本日は、この検討会の場をおかりいたしましてオリンピック・パラリンピックと文化、そしてT o k y o T o k y o F E S T I V A Lの御説明をさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

早速ですけれども、皆さんはオリンピック・パラリンピックといえばどういったものを思い浮かべるでしょうか。大体の方は水泳や陸上、柔道などのスポーツを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実はオリンピック・パラリンピックの期間はさまざまな文化事業も展開されている文化の祭典でもあります。オリンピック・パラリンピックの期間に行われる文化事業のことを特に文化プログラムと言っております。文化プログラムへの参加、鑑賞を通じましてオリンピック・パラリンピックへの参加意識を高めていただきたいと考えております。また、さまざまな地域で行われますことから、地域の活性化などの効果をレガシーとして残していくことを目指しております。

では、これまでの大会の文化プログラムについて、少し御紹介したいと思います。

今、日曜日のNHKの大河ドラマで「いだてん」をやっていますが、先日までの第1部でやっておりました、日本人が初めてオリンピックのスポーツ競技に参加したと言われる1912年のストックホルム大会から実は芸術競技という形で文化プログラムも始まっておりました。その後、日本は1932年のロサンゼルス大会でこの芸術競技に初参加しております。1936年のベルリン大会では日本人もメダルをとっておまして、そのときの絵画の藤田隆治さんの「アイス・ホッケー」という作品の写真を掲載させていただいております。この後、芸術競技は、作品の輸送が困難ですとか客観的な評価が難しいという理由で廃止されまして、芸術展示という形に変わっていきます。前回の1964年の東京大会では、名立たる日本人芸術家の作品の展示や、さまざまな公演が行われたようです。もしかしたら皆様の中にはご覧になった方がいらっしゃるかもしれません。

そして、近年の文化プログラムは1992年のバルセロナ大会から大型化しております。特に、先ほど座長からもありましたが、2012年のロンドン大会ではかつてない規模の文化プログラムが実施されました。資料の下側の写真にロンドン大会のものを載せております。一番下の写真はピカデリーサーカス・サーカスというイベントのものですけれども、ロン

ドンにあるピカデリーサーカスという名前の広場で本当にサーカスをやったというイベントでございました。こちらをやるために、ロンドン市は2年かけて調整いたしまして、1945年以來の道路閉鎖を行ったそうです。

このように実は昔から文化プログラムは行われておりました。では、なぜこのようにどの大会でも文化プログラムが行われるようになったのでしょうか。

次のページをご覧ください。オリンピックにはオリンピック憲章という重要な決まりがございます。資料にも書かせていただいておりますが、オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合ということが記載されています。また、オリンピックをつくったクーベルタン男爵という方がいるのですけれども、その方は、オリンピックはスポーツと芸術の結婚であるというふうにも言っております。だからこそオリンピックは文化の祭典でもあると言われております。そして、東京2020大会では東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、そして国の3者がそれぞれ文化プログラムを実施していきます。東京都は開催都市、ホストシティとして、T o k y o T o k y o F E S T I V A Lという名前で、このようなロゴを掲げまして、東京の文化の魅力を発信するために多彩なプログラムを実施しております。詳細は後ほどまた御説明いたします。

次に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、まさしくオリンピック憲章に文化プログラム、文化イベントを催すこととすると定められておまして、ご覧のようなエンブレム付きのマークを使いまして全国で展開しております。ただ、オリンピック・パラリンピックの公式スポンサーとの関係もございまして、会場となっている自治体ですとか非営利団体など、マークを使える団体が一部限定されております。

最後に、国については、B e y o n d 2020プログラムと日本博というものがそれぞれございまして、ご覧のようなマークをつけて、こちらで日本全国でさまざまな事業を展開しております。

次のページをご覧ください。ここからは東京都が実施する文化プログラムT o k y o T o k y o F E S T I V A Lの具体的なお話をしたいと思います。改めてT o k y o T o k y o F E S T I V A Lとは、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて東京を文化の面から盛り上げるために都が行っているさまざまな文化プログラムのことを言っております。右にありますロゴが目印でございます。「文化でつながる。未来とつながる。」というキャッチコピーをつけてございます。後ろののぼりもそのロゴを使ってございます。

T o k y o T o k y o F E S T I V A Lは大まかに三つに分けられます。

一つは、東京都が主体となって実施するプログラムです。具体的なものを少し挙げますと、国内外からアイデアを募集しまして、約2,500もの応募の中から13の企画を選んだ企画公募事業、それから六本木のまちをアートで埋め尽くす一日限りのイベント六本木アートナイト、また、日ごろからお稽古などをされている方に発表の機会を提供する都民パフォーマーズコーナー、浜離宮などの庭園で気軽にお茶を楽しめる東京大茶会、八王子市をはじめ多摩地域の文化資源を活用して伝統文化、芸能の魅力を発信する伝承のたまてばこなどの事業のほか、例えば東京都美術館や東京文化会館など都立文化施設における展示や公演などが該当いたします。

右側の絵をご覧ください。上の絵は人の顔が空に浮かんでいる写真ですが、最初に御紹介いたしました企画公募事業で選ばれた13件のうちの一つ、「まさゆめ」というプロジェクトでございます。このプロジェクトでは、写真のように、東京の空にたった一人の顔が浮かびます。この浮かぶ顔ですが、つい先日まで一般の皆様から顔の候補を募集しておりました。誰の顔が浮かぶのか、来年2020年を楽しみにしていただければと思います。

その下の少し小さめの写真ですが、こちらは六本木アートナイトの様子でございます。ドイツからやってきた光る大きな人形が音楽に合わせて雄大かつ幻想的に動き回りまして、六本木のまちを彩りました。

最後、下の写真ですが、都民パフォーマーズコーナー、通称「トパコ」と言っている事業の写真でございます。こちらは、南京玉すだれを習っていらっしゃる団体さんが渋谷のマークシティで披露したときの写真でございます。

このように大規模なものから身近なものまで、さまざまなプログラムを御用意しております。

次に、二つ目のカテゴリーといたしまして、民間が主体となって実施するプログラムへの支援、つまり助成金のプログラムでございます。T o k y o T o k y o F E S T I V A L助成では、市民の方の活動から海外のアーティストの活動まで幅広いメニューを御用意しております。東京カラオケまつりというイベントにも助成をしております。

そして、三つ目が区市町村・組織委員会との連携でございます。この後御説明いたしますが、区市町村の事業でもT o k y o T o k y o F E S T I V A L事業として2020年を盛り上げていただいている事業がございます。また、先ほど御説明した組織委員会とも今後連携していく予定でございます。

続きまして、次の資料をご覧ください。区市町村との連携事業についての詳細になります。東京都では、これまで御紹介した事業のほかにもたくさんの事業を行っておりますが、なかなか身近なイベントが少なく、T o k y o T o k y o F E S T I V A Lがあまり知られていない現状もございます。そこで、昨年度から区市町村で実施している事業もT o k y o T o k y o F E S T I V A Lに位置づけてもらい、都民の皆さん全員で盛り上げられるようにしたいと考えております。現在、各区市町村にはお願いをしているところでございますが、既に幾つかのイベントをT o k y o T o k y o F E S T I V A L事業にさせていただいております。例えば新宿区さんの、新宿のまち全体がアートとカルチャーイベントの博物館になる「新宿フィールドミュージアム」や、右側は府中市さんの「府中市民芸術文化祭」、下側の写真ですが、立川市さんの「立川よいと祭」など、皆さんの身近な文化イベントもT o k y o T o k y o F E S T I V A L事業となっております。このT o k y o T o k y o F E S T I V A Lのロゴを見かけましたら、オリンピックに向けた文化プログラムの一つということを思い出していただいて、ぜひ皆さんも参加して一緒に盛り上げていただければと思います。

また、本日、クリアファイルが皆様のお手元でございますけれども、こういったグッズなども作成して、T o k y o T o k y o F E S T I V A Lのイベントでお配りしております。

そして、今うちわも作っております。こちらのうちわは、東京都がT o k y o T o k y o F E S T I V A Lとして文化も頑張っていることを話題にさせていただけるように、時節柄のアイテムで皆様にお届けしようと考えて現在作っております。柄は五つございまして、それぞれおめでたい柄を意識してございます。下側にそれぞれの柄の説明も入っている仕様になっております。これらのうちわは現在作成中でして、でき次第、区市町村の文化担当部署にお送りさせていただく予定でございます。皆様のお手元に届くのは8月になってしまうかと思いますが、各町会様の夏祭り等の行事でお使いいただける場合は各区市町村の文化担当の部署に御相談いただければと思います。先日、区市町村の文化担当部署の方にも説明会、会議の場がございまして、そこでも同様のお話をさせていただいております。

なお、大変恐れ入りますけれども、このうちわも数に限りがございますので、御希望の数などにつきましては区市町村とあらかじめ御調整いただきますようお願いいたします。

さて、いよいよオリンピック・パラリンピックまで1年少しとなりました。スポーツだ

けではなく、文化の面からも盛り上げていくよう、我々もより一層努力していきたいというふうに思っておりますので、皆様におかれましてもぜひこのT o k y o T o k y o F E S T I V A Lのロゴを目印にさまざまな文化プログラムに御参加いただきまして、一緒に盛り上げて楽しんでいただければと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

○座長 伊東課長、ありがとうございました。

御質問や御意見につきましては後ほどお受けしたいと思います。

今説明があったようにオリンピック・パラリンピックは、文化の祭典でもございます。あと1年でございますので、うちわなども活用いただきまして、ぜひ皆様に御周知いただき、盛り上げていただければと考えております。

さて、現在、地域の底力発展事業助成では、オリンピック・パラリンピックの気運醸成事業につきまして10分の10の率で助成させていただいているところでございます。これまでもスポーツ選手を呼んでの講演会ですとか、スポーツに着目したような形でさまざまなイベントが実施されてきたところでございます。ただ、今御説明しましたように、オリンピック・パラリンピックはスポーツだけでなく、文化のイベントでもございます。文化イベントでの気運醸成を図っていただくことでもこの助成も活用していただけますので、その方法につきましてもさまざまな形で御検討いただければというふうに思います。文化イベントに取り組んでいただき、今まで参加されてこなかった団体の方たちとのコラボレーションを行うことで活動の幅が広がっていくと考えていますので、そういった活用の仕方もぜひご検討いただければと思います。

それでは、事務局のほうから幾つかの町会・自治会様の取り組みの例を御紹介させていただきたいと思っております。これを参考に文化イベントを行っていただき、T o k y o T o k y o F E S T I V A Lを広げて気運醸成を図っていただければと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、事務局より御説明をお願いします。

○地域活動推進課長 それでは、私のほうから御説明させていただきます。

地域の底力発展事業助成に御申請いただきました事業から、文化的な取り組みを行われている事例を幾つか御紹介させていただきたいと思っております。今後の御参考にさせていただければというふうに思っております。文化的な事業を行った町会・自治会さんからご提出いただく実績報告書では、このような文化的な事業を行ったことで、地域に存在するさまざま



まな文化的団体さんに企画とか運営に携わってもらったり、出演してもらうことによって、普段はない幅広い世代間の交流が生まれたですとか、地域の連携強化にもつながりましたというような報告をいただいております。また、地域の団体にとっても発表の場の創出になりお互いにいいことがあったという話をいただいたり、当日出演される人の知り合いですとか、スポーツには興味がないんだけど、文化的な事業には興味ありますという住民の方々も新しく参加してもらって、普段なかなか会うことのない、参加してもらえないような方も参加してもらうきっかけになったというような報告もあります。あとは、町会・自治会の加入促進にもつながったという報告をいただいておりますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

まず一つ目ですけれども、大田区の蒲田西地区自治会連合会さんの「コンサートを通じた地域交流・地域力向上事業」でございます。外国人団体、蒲田西地区を中心に活動している音楽団体、幼稚園、小学校、お囃子の団体を招いた音楽コンサートを実施されています。参加者全員による合唱を通じた交流の促進やアンケートの実施によるフィードバックを団体さんの今後の活動に活かしていくということをやられています。実行委員会に出演者も参加して、当日の運営は、町会の会員さんだけではなく、それぞれの参加団体やボランティアの方々も協力してもらい、非常に盛り上がったイベントだったという報告をいただいております。ウリパラムという韓国の伝統打楽器の団体さん、多摩川諏訪囃子、おなづか小学校のバイオリンクラブなどなどの協力、参加があってイベントが開催されたものでございます。

文化の話から若干逸れてしまうかもしれませんが、先日、都町連の表彰式のときに、知事から外国人の住民が非常に増えていますので、町会の皆さんで、ごみの出し方からいろいろ教えてあげてくださいというお願いをいたしました。この事業では韓国の人たちと一緒に交流することで、お互いに交流が持て、異文化への理解を促進させる効果があったという報告もいただいております。交流の一つのきっかけとなったのではないかと思います。

次は練馬区の小竹町会さんの「小竹の森音楽祭」というイベントでございます。地域の小学校、地区にあります音楽大学、練馬区で持っている交響楽団も招いて、音楽祭を実施したものでございます。こちらも参加者全員で合唱を行って、それを通じた交流の促進ですとか、アンケートのフィードバックをあわせて実施されております。こちらは、事前に希望を募って音楽祭に向けて合唱団を結成したり、その音楽祭に向けた複数回の練習を実施したりで交流が促進されているところでございます。参加の団体は、小竹小学校吹奏楽

部、武蔵野音楽大学、練馬のほうにあります日本大学藝術学部、あとは練馬交響楽団等の協力、参加をいただいて行われたものでございます。

次は小平市の富士見住宅自治会さんのイベントでございます。「食文化とスポーツを通し地域交流の向上を図る事業」でございます。事業の概要につきましては、小平の地場にあります小平糧うどん体験実習試食、祭りミニ運動会、模擬店、さまざまなイベントを行うというものです。それから、小学校によるよさこい踊り、郷土踊り、フラダンス、ハワイアン生バンドを招いた催しの開催であります。参加された団体は、小平の第六、第十三小学校、小梅会、若香月会という郷土踊りの団体さん、ハワイアンバンド&フラダンスの団体さんとうどん普及会さん、あとは地域包括センターですとか地元の老人会さん等も参加されたところで、いろいろな世代の人が一緒にイベントで盛り上がったというものでございます。

続きまして、杉並区町会連合会さんで行われています若者の自己表現力向上と健全な心を育む「すぎなみ舞祭」のイベントでございます。青少年を中心に広く参加団体を募集して実施しているダンスコンテストでございます。このコンテストのほか、交流エリアや模擬店、あそびコーナーを設置しているものでございます。あとは、専用ブースを設けまして、町会・自治会さんの活動の紹介ですとか、加入促進も実施されているところでございます。この事業の普及啓発を目的に、小中高校生のPRのユニットを結成して、複数回の練習の後、地域のイベント等において踊りを披露してこの事業等の広報を実施しているという取り組みでございます。参加団体さんはそれぞれの応募されてきたダンスのチームと区の商店会連合会さん、区の青少年育成委員会会長連合会さん、区立小・中学校PTA連合協議会さん、区の民生委員児童委員協議会さん、ボーイスカウト東京連盟、区のスポーツ推進委員の会さん、あとは東京都女子体育連盟杉並さん等々、幅広い参加を得て、杉並区町会連合会さん全体でやられているイベントでございます。

今度は墨田区町会・自治会連合会さんのイベントでございます。こちらの事業名は区民おもてなし講座で、礼法師範の方ですとかオリンピックのメダリストを招きましたおもてなし作法を学ぶ講座を実施されているものと、伝統芸能からおもてなしを学ぶ能楽鑑賞ですとか体験講座を実施されているものでございます。これは、組織委員会の応援プログラムの認証事業で、オリ・パラの気運醸成にも役に立っているものと御報告いただいているものでございます。講座の講師として小笠原流礼法の総師範ですとかロス五輪のメダリストの方、シテ方宝生流の能楽師の方、加賀前田家当主の方、法政大学スポーツ健康学部教

授等々をお招きして講義をされているものでございます。先ほどお話ししました今回の2020大会の気運醸成もあります、伝統的な事業等をやることによって、伝統的な礼儀作法とか国際的なマナーなども学べて、観光客等のおもてなしの意識の向上も持てたというような報告をいただいております。

私のほうから御紹介させていただく事業は以上でございます。

○座長 ただいま五つほどですけれども、取り組みを御紹介させていただきました。今御説明した中にもございました杉並区町会連合会様の事業につきまして、鹿野会長のほうで何か補足があればお願いできますでしょうか。

○杉並区 杉並区の鹿野です。よろしく申し上げます。

例年、会場によって違いますが、来場者数が、去年の場合は1万2,000名で、出演者が約1,000名です。実際に町会のブースを設けまして、そこで町会の活動を説明していますが、こういうものをその場でお渡しして、杉並区ではこんな知り合いが増えましたという町会の紹介をして、そこで実際に町会の会員になっていただく例も今まで何件かありました。また、参加チームですけれども、毎年60から70チームぐらい参加していただいている、去年の場合は、遠くは茨城県常陸太田市とか取手市からも見えています。近隣では中野区、渋谷区、武蔵野市、多摩市、そういう杉並区以外の方からも参加いただいて、18歳以下の子供たちが一生懸命踊っている姿を見ているというところです。

○座長 鹿野会長、ありがとうございました。

続きまして、墨田区町会・自治会の事業につきまして、事務局から補足があればお願いいたします。

○墨田区地域活動推進課 墨田区地域活動推進課の坂下と申します。

補足といいますか、重複するところもあるかと思うんですけれども、この事業は、昨年度、本年1月から3月に行った事業でございまして、東京都の地域の底力発展事業助成を使って全て費用を出させていただいて、かつ、東京2020応援プログラムにも参加させていただきました。墨田区では、先月やっと方向が決まったんですけれども、国技館がボクシング会場になっておりまして、区民おもてなし講座ということで、日本の文化的なおもてなしとか作法の神髄などを日本の古典から理解して、そして国際的なマナー、オリンピックにおけるコミュニケーションを学んで、東京2020大会で日本的、そして江戸からの墨田区らしいおもてなしを古来からの能の鑑賞を通じて体得しようということで行われました。

このきっかけは、ここにおられます石倉会長が会長を務められております墨田区町会・

自治会連合会も所属しております墨田区オリンピック・パラリンピック地域協議会がございまして、そこで東京大会後のレガシーとして区民一人一人におもてなしやボランティアの精神を根づかせるということでテーマに設けて検討を進めておりましたところ、広く区民向けの文化的な講座がよろしいのではないかとということで検討をした経緯がございます。

内容は、先ほど御説明をしていただきましたが、3回ございまして、第1回目が加賀前田家18代当主の前田利祐様、小笠原流礼法総師範の鈴木万亀子様を講師に迎えたおもてなし礼儀作法の講座で、2回目がロサンゼルスオリンピックの野球の金メダリストで、ピッチャーをやっておられた吉田幸夫様とか、NHKの解説委員で主にスポーツを担当しておりましたアナウンサーの山本浩様が講師になりまして、オリンピックの国際マナー、コミュニケーションを理解する。そして、3回目は、文京区本郷の宝生能楽堂に実際に行きまして、能を通しておもてなし礼儀作法の神髄を理解すると題した能の鑑賞会をやった次第でございます。毎回30名から40名ぐらいの参加者で、イベントということではないので、そういう形でやらせていただきました。

成果ですが、ただの講演会ではなくて、文化的なワークショップという要素も加えて、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方に参加していただくことができたこと。講座の後も一部の町会や連合町会で東京2020応援プログラム（祭り）を活用した庁内のお祭りとかイベントの開催を企画するような波及効果がまちに生まれている次第でございます。

補足は以上でございます。

○座長 どうもありがとうございました。

ただいま御紹介させていただきました事業では、ふだんなかなか参加されない方なども参加するようになり、地域のつながりが広がっているものも多いのかなというふうに思います。

それでは、ここで意見交換のお時間をとりたいと思います。どなたかお話しただけの方がいれば助かるのですけれども、どうぞよろしく願いいたします。今御紹介した中で質問のようなことだとか、例えば文化的な取り組みについてこんなことを考えているんだとか、何かいろいろなお話、意見、考え方があればぜひ御披露していただければと思うんですが、いかがでしょうか。

○立川市 立川市の自治会連合会の会長の萬田でございます。今日は、実はこのTokyo Festivalの中に立川市自治会連合会の「立川よいと祭」の万灯みこしの写真を掲載していただきまして、ありがとうございます。今見て、びっくりしたと

ころでございます。私どもといたしましては、自治会連合会が主体となりましてこの立川  
よいと祭を開催しております。これは市民相互の触れ合いを密に、交流の輪を広げて、市  
民の郷土意識を高めて、立川市のイメージアップを図ることを目的に開催しているわけ  
でございます。

そういう中で、このおみこしについては20年ぐらい担いでいなくて、これを持っている  
都営住宅がだんだん高齢化いたしまして担げなくなったというようなことで、せっかくこ  
んないいおみこし——30年前ぐらいにつくったときは総ケヤキで非常に立派なおみこしで、  
当時は若い人が多かったものですから担げたんです。ところが、5年ぐらい前に私どもで  
これをお借りして、各自治会に応援をいただいて、また地域のほかの周辺住民の皆さんに  
も応援をいただいて、このみこしを出そうじゃないかということで、6回ぐらい毎年おみ  
こしを出しております。このことが伝統文化の継承の意識を高めていくことと、もう一つ  
は、このおみこしをいろいろな団体に担いでもらっていることによって絆や連携が強めら  
れているということで、自治会連合会としては、借りたおみこしではございますけれども、  
大変役に立っているので、ちょっと御紹介をさせていただきました。

○座長 どうもありがとうございます。こういう歴史と伝統のあるものを活用して、地域  
が一緒になって、一つのところじゃなくて、いろんなどころの方たちが担ぎ手が出てきて、  
みんなで盛り上げていただいて、古い伝統に新しい意味を加えてやっていくというすばら  
しい取り組みだと思いますので、ぜひ今後も続けていただければというふうに思います。

○昭島市 昭島の中島です。先ほど説明があったうちわですが、あれはなかなかいいと思  
うんですけど、まだ製作中だということで、いつごろ市町村に届くのか教えてください。

○魅力発信プロジェクト担当課長 御質問、ありがとうございます。文化振興部の魅力発  
信プロジェクト担当課長の松田と申します。

御質問いただきましたうちわにつきましては、皆様のお手元に届くのは8月の頭ぐらい  
になろうかと思っております。それぐらい以降から順次お渡しできるようなタイミングになろう  
かと思っております。現在鋭意製作中でございますので、少々お待ちいただければと思っ  
ております。よろしく願いいたします。

○座長 今その画面にデザインが出ています。江戸時代からの歴史と伝統のある模様を  
活用しながらつくっていますので、ぜひ御活用いただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

それでは、御意見も出尽くしたようですので、この辺でまとめをさせていただければと

思います。

今回、T o k y o T o k y o F E S T I V A Lということで、皆さんにいろいろオリンピックの気運醸成に取り組んでいただいて、東京都としても本当にありがたく思っているところがございます。

繰り返しになりますけれども、どうしてもオリンピックというとスポーツのイベントというふうに思われがちのところがあって、なかなか文化イベントとつながらない部分があるろうかと思います。先ほども説明したのですけれども、文化プログラムについても、東京都のもの、組織委員会のもの、国のもので、国のほうはB e y o n d 2020と日本博で、全部でここに四つ並んでいるような状況で、なかなかわかりづらいところもあろうかと思えます。

今日はT o k y o T o k y o F E S T I V A Lということで御説明させていただいております。後ろにも旗がありますけれども、このマークを記憶にとどめていただいて、このマークがあれば、「ああ、東京都がやっている文化イベントなんだ」というふうに思い出していただくと非常に助かります。これを活用して、いろんな形で文化の面でも東京を発信していきたい。スポーツだけでなく文化もやっているということで世界的にも認められるというのがオリンピックですので、ぜひとも文化面での取り組みも推進していただければと思います。

また、現在東京には外国人の方が55万人以上住んでいます。地域によっては人口の1割ぐらいが外国人だという区もあると思います。今後、外国人の方たちとも交流をしていかなければならないところもあると思います。そういった中で、先ほどの大田区蒲田西地区自治会連合会の取り組みのように、外国人団体も巻き込んで町会活動を発展させているような取り組みも見られます。

文化というものを使うことによって、今まで交流していなかった団体だとか、町会に協力的でなかったような方たちも、一緒にやったほうが楽しいとか、いろいろ広がりがあるんだということを感じていただいて、一緒にやっていく素地ができるんじゃないかと思えます。1回とか2回だとなかなか難しいと思うんですが、何回もやっていく中でこういった方たちとさらに緊密な連携が図れるんじゃないか。そういうことで、より町会・自治会活動が活性化していくんじゃないかなと思っています。

こういったことも含めて、ぜひ文化の面でも活動していただいて、そういう形で助成事業等も使っていただければ、我々としても非常に有意義な使い方だなどと思えますので、御

検討をしていただければというふうに思います。

私からは以上になります。

次に、本検討会の副座長でございます鈴木会長に本日の検討会の感想をお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

○副座長 それでは、御指名いただきました副座長の鈴木でございます。

今お話ししていただきました感想をということでございますが、まず初めに申し上げたいのは、令和元年度の東京都地域活動に関する検討会ということで、毎年やっていただけるようになりましたが、今年もやっていただいた結果、このようにたくさんの市区町村の方の御参加をいただいたこと、私からも厚く御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

そして、その中で五つの区市の実例も紹介していただきました。そんな形でオリンピックの盛り上げということで力を入れている東京都でございますが、我々もそういう点では底力を利用していただいて今までも活動しているわけでございます。御承知のとおり、オリンピックパラリンピックの気運醸成につながる活動を行う場合について、地域の底力発展事業助成の助成率10分の10とする東京都の姿勢もありますので、その辺のところを御理解していただいて、より一層このオリンピックを盛り上げていただければいいかなと思いますし、底力の活用にもつながると思っております。

そして、皆さん御承知のとおり、過日、聖火ランナーの都の中のコース取りが決まりました。そして、23区のコース取りについてはまだ決まっていない。卑近な例といたしましては、板橋区においては、前は埼玉県から入ってきたんですが、今回は隣の豊島区から聖火ランナーが入る形です。そして北区のほうに抜けるということだけですので、今のうちわの話じゃありませんけれども、できればなるべくコース取りも早めに東京都にお願いして、隣接する小中学校の児童に日の丸の旗を差し上げて、盛り上げるべく運動もしたいなと思っておりますので、ぜひその辺も御配慮願えればありがたいと思います。

うちわの件も、8月ということでございましたが、皆さんも御承知かと思っておりますけれども、7月に盆踊りをやる場所もございます。そして、8月もいろんな行事がございます。そんな形で暑い盛りでございますので、できるだけ早くうちわをいただければありがたいというのが本音でございます。また、のぼりについても、例えば区民まつりとか、5市区の実例の中にのぼりを立てていいのかどうかということもあります。その辺のところも詰めていただいて、ぜひにぎやかに盛り上げていただければいいなという形で、どのくら

いいただけるのかという許容範囲も含めて、枚数も提示していただければ、我々、東京都の町会連合会といたしましても面目が施されるのかなと思いますので、皆さんの御協力を得て、なお一層盛り上げたいと思っております。

以上でございますが、とにもかくにも毎回やっていただいているこの活動も、お聞きしたところでは、今度は11月に地域活動に関する検討会もあるそうでございますので、ぜひその辺のところもなお一層皆さんの御協力を得て盛り上げさせていただければありがたいと思います。

以上でございます。どうもお世話になります。よろしく願いいたします。

○座長 鈴木副座長、ありがとうございました。

それでは、本日の議事は以上といたします。これをもちまして、令和元年度第1回地域活動に関する検討会を閉会いたします。

委員の皆様の御協力によりまして滞りなく会の運営を進めることができたことに厚く御礼を申し上げます。

また、次回の地域活動に関する検討会は、先ほど副座長がおっしゃられたように11月を予定しておりますので、引き続き検討会への御協力のほうをよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時8分閉会